

論文

マイナーミュージシャン、ライブハウス、ファンの 相互のアクセスを可能にする Web テクノロジー

- GoogleMapsAPI を用いたライブハウスマップのデザイン -

澤田 浩二

地図はコミュニティやネットワークの中で用いられ、多視点的かつ多層的な知識や関心を表現している。この地図のデザインをネットワークのデザインとして捉え、そのモノのみのデザインを超えた、ネットワークの表象としてのデザインを試みた。より深いエスノグラフィ的調査を可能にするため、私の身近な実践であるライブハウスコミュニティをフィールドに、特に渋谷という街に焦点を絞り、調査、デザイン、実装を行った。結果的には、インタビューの中で得られた様々な意見や提案、実際に使いたいという声から、このマップがマイナーミュージシャンやライブハウスコミュニティで用いられる可能性が高いことが明らかになった。

キーワード：サブカルチャー，GoogleMaps，network，Web2.0

1 理論的背景

1.1 人々や技術のネットワークに埋め込まれるドキュメント

本研究は、マイナーミュージシャンのためのアクターのデザイン、ネットワークのデザインを行う。具体的には、GoogleMaps という電子地図を用い、そのデザインを通して、彼らの活動、ネットワークのデザインを行うことを目的としている。では、ここで言う「地図」のデザインは、本研究の中でどう位置づけられるのだろうか。まず、地図とは、単に世界の写しではなく、活動や、ネットワークの表象である。ラトゥール(Latour, 1990)は、18世紀の冒険家ラ・ペルーズによってもたらされたサハリンの地図はベルサイユを中心とする植民地主義という関心によって結合されたネットワークの中で描かれたと、言及している。(図1)

国王ルイ 16 世より太平洋探検を命じられたラ・ペルーズ一行は、その道中にサハリンに迷い込んだ。ラ・ペルーズ一行はサハリンの漁師に、ここが一体どこなのかを訪ねた時、漁師らは、漁業で用いるサハリンとタタール大陸(アジア大陸本土)周辺の地図を砂浜に描いたのだが、その地図は、ラ・ペルーズらの持つ地図と寸分違わぬ精度であった。この事例が指し示すことは、「個人とし

ての地図を描けるような認知的な能力の差ではなく、地図を描き、使うという行為や描かれた地図がどのようなネットワークの中に位置づいているか」(上野・野々山・真行寺, 2008)ということである。

このように、地図に代表されるようなドキュメントは、人々や技術のネットワークの中に埋め込まれ、そのネットワークの在り方に応じて 様々にデザインされている。つまり、地図のデザインは、地図のみを取り出してすることはできないのである。そして、ここで挙げた様な地図といったドキュメントのデザインの延長として GoogleMaps の様なウェブサイトのデザインが位置づけられるのである。本研究で制作するライブハウスマップ「LINDA」は、表象的には単なるライブハウスマップで、ライブハウス情報を閲覧する為だけの道具のように見える。しかし、それだけではなく、ライブハウス自体の活動、そこで行われるミュージシャンの活動、彼らの HP、マイナーミュージシャンを追いかけるファンの活動などの、ライブハウスコミュニティにおける活動の相互のアクセスを再編し、コミュニティ内のアクターを再配置するものなのである。ライブハウスコミュニティにおける社会的ネットワークや実践がどのようなものかを、より筆者の身近な実践に寄せ、具体的な事例にもとづいて見てゆき、ライブハウスマップのデザインはもちろん、それが用いられるコミュニティのアクターやネットワークのデザインを目指す。

SAWADA Koji

武蔵工業大学環境情報学研究所博士前期課程2年生

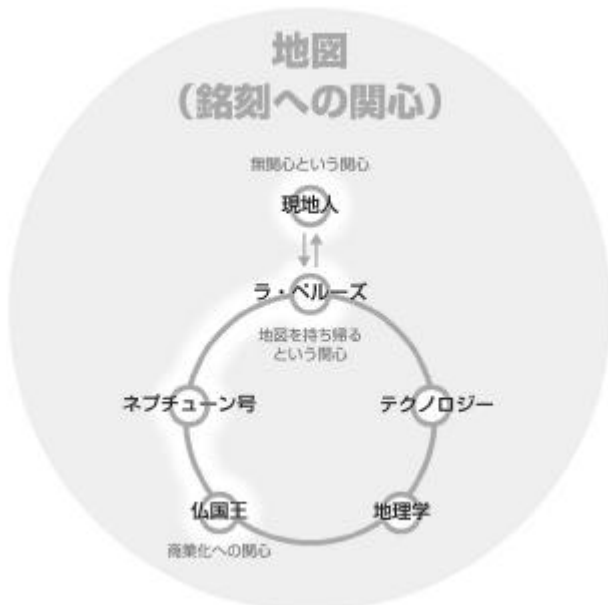


図1 ネットワークをデザインし活動を可視化する

2 ライブハウスコミュニティ

2.1 マイナーミュージシャンとライブ

ミュージシャン、その中でも大半を占めるマイナーなミュージシャンのなかで、「ライブハウス」というミュージシャンらが演奏を行う専門の飲食店での演奏、一般的に「ライブ」と呼ばれる活動は重要な位置づけとされている。何故なら、彼らは、メジャーなミュージシャンのように、様々なメディアを用いて、自らの情報を広く発信することができない。そこで、言わば、草の根的に、その他のマイナーミュージシャンらと合同でライブをしたり、また、イベントを開いたり、ライブハウスとコミュニケーションをし、そのライブハウスでの定期的なライブを狙ったりすることで、自身らのネットワーク、コミュニティを広げようとしている。

そのライブを行うにあたって、彼らは集客を図る。その理由は、前述した、自身の活動をより広めるため、そして、ライブハウスに出演するには出演料が発生するためである。ほとんどのライブハウスがノルマ制を設けており、相場では各バンドは1500円のチケットを20枚売らなければバンド側は赤字になってしまうのである。彼らマイナーミュージシャンが他のミュージシャンと合同でライブをするのはその為である。また、彼らは様々な道具を用いて集客を計る。代表的なものでは、彼ら自身のウェブサイトでの告知、また、ライブハウスのウェブサイトのスケジュールページが挙げられる。しかしながら、従来、そういった道具は、うまく機能していなかった。例えば、彼ら自身のウェブサイトは、彼ら自身がマイナーであるために、検索エンジンでは上位にヒットしにくい。また、特殊な名前のバンドは、バンド名を知っ

ていないと検索できないのである。さらに、ライブハウスのウェブサイトのスケジュールページを見てみると、そこには、文字情報しか掲載されていない。どんなジャンルのバンドなのか、演奏はうまいのか、そういった、彼らの具体的な活動は、そのページからは何も見ることができないのである。そのため、実際に彼らのようなマイナーミュージシャンのライブに来るお客は、彼らの友人関係のみが多く、赤字を覚悟でライブ活動をしているのである。

2.2 社会・道具的ネットワークを見ないデザイン

このような現状は、おそらく、ライブハウス・音源・動画・ミュージシャン・ミュージシャン自身のウェブサイト・ファン・テクノロジーといったような、ライブハウスコミュニティを構成する要(図2)が切り離して考えられていたからではないだろうか。つまり、社会・道具的ネットワークを意識してデザインされない現状がこのライブハウスコミュニティにはあったのである。そのため、彼らは最も発信したい情報を発信できずにいた。ミュージシャンのライブ情報へアクセスするということは、彼らの楽曲、そして、そのジャンル、その他の活動にアクセスすることと切り離して考えることができないはずである。



図2 ライブハウスコミュニティを構成する要素

2.3 布置、ネットワークのデザイン

ライブハウスコミュニティを構成する要素の布置、ネットワークを再構成し直すことでマイナーミュージシャンの活動がより可視化され得るのではないだろうか(図3)また、ミュージシャンやファンの参加可能性を増すことで、コミュニティのあり方、それに伴う活動の変化が期待できるのではないか。例えば、CDを視聴してから買うように、彼らの具体的な活動、音源やライブの様相を撮影した動画を見てから、そのバンドを気に入りライブハウスへ行くといった活動が生まれたり、今まで、コネクションや金銭的な理由で、埋もれていたままになっていた才能あるミュージシャンが発掘されたりしないだ

ろうか．それらを実現する可能性のあるものとして，ユーザーが相互に書き込むことができる GoogleMaps のデザインを試みた．



図3 ネットワークの再デザイン

3 デザインプロセス

3.1 多層的な知識，関心を表現するマルチレイヤー

江波戸・小柳津・鎌形は「町田の都市構造の分析とマルチレイヤーによる情報デザイン」のなかで，ただ，情報がユーザーの目的ごとにカテゴリー化されて分かりやすくなったり，多くの情報の格納を可能にするだけでなく，必要な情報を組み合わせることで，新たな切り口から，それぞれの関連性を見て取ることができるようになったと論じている（江波戸・小柳津・鎌形，2005）．マルチレイヤーとは，情報に知識，関心，視点，経験などの「まとめり」をつけ，多層性を示したり，まとめり同士をリンクさせ，その関係性のあり方を可視化するものである．（図4）

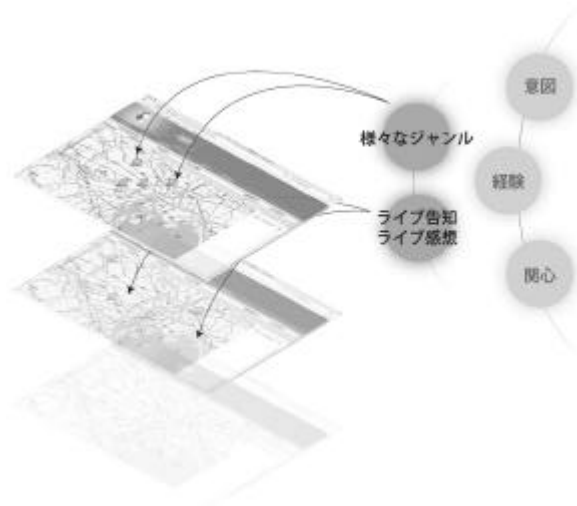


図4 多層的な興味・関心を表現することが可能

音楽，また，ライブハウスは場所性を持っており，地域によって流行のジャンルが異なるという性質がある．例えば，東京都内においても流行のジャンルはそして，そのジャンルもまた，ミュージシャンや，リスナーの経験，関心によって様々に表現される．このような，場所性や，経験，関心を構成するリソースをマルチレイヤーシステムを用いて配置，表現することで，新たなネットワークや，リンクの可能性が広がる．

4 「LINDA」プロトタイプ概要

4.1 プログラム開発

上野研究室では，Google が公開している GoogleMapsAPI を用いることで，Ajax と PHP によって文字情報，画像，動画，音楽ファイルも書き込み・リンク可能なサーバプログラムを用いてバンド，ライブ・ライブハウス情報を相互に書き込み可能な GoogleMaps のサイトが同研究室3年松村飛志によって構築されおり，彼の協力のもと本研究は進められ，プロトタイプ「LINDA」（図5）の完成となった．



図5 プロトタイプ「LINDA」

4.2 Web 2.0 の技術

上記の通り, Ajax と PHP を用いて, 文字情報, 画像のみならず, 動画, 音楽ファイルも書き込み・リンク可能になった。ライブハウスのウェブサイトや, ミュージシャン自身のウェブサイトのような, 既存のツールでは, 情報の流れは, ライブハウスからリスナー, ミュージシャンからリスナーといった様に, 一方的であった。そのため, ファンがお気に入りのミュージシャンの活動をバックアップするといったことは皆無であった。この地図では, 動画を書き込むシステムとして「YouTube」を用いている。「YouTube」では, ID さえ取得すれば誰でも, 動画を投稿することができる。このようなシステムのため, ライブの様子を撮影し, 投稿するミュージシャン, ファンは少なくない。「GoogleMaps」や「YouTube」といった技術を用いることで, 双方向的な情報の流れが期待できる。同時に, ファンがミュージシャンをバックアップといった活動が期待できるのである。(図6)

4.3 実践で用いられる中での仕様の変化

プロトタイプが完成した後, すぐに友人に配布し, 使用してもらったが, 画像のアップロード板へのリンクに「画像うpろだ」と書いてあり(「うpろだ」とは, 「アップローダー」のことを指す言葉で, ネットの一部の文化のなかで用いられている)友人にサイト自体のデザ

インに抵抗があると指摘された。こういった, 彼らのコミュニティでは用いられない表現や, 書き込みが難解であるといったことが原因で LINDA プロトタイプは結果的にはあまり使用されなかった。彼らの PC を扱う技術や, サイトデザインといった所までの, 彼らのコミュニティの中で, このツールを使用する場面を想定する視点が欠けていたためだった。プロトタイプが実際に使われていく中で, 使用する人の視点をフィードバック・再デザインを重ねてゆき, CSS で見た目のデザインも充実させた。

また, このプロトタイプでは, 音源・動画の閲覧は可能だが, 書き込みは管理者に依頼しないとアップロードできなかった。また, 書き込みが一点に集中するとポイントマーカーがクリックしづらく, 閲覧が困難になるという問題も指摘された。こういった, 書き込み, 閲覧上の重大な問題, マイナーミュージシャンの具体的な活動を見ることができるといふ, このマップのコンセプトはこの段階の我々の技術ではまだ修正, さらに, 実現不可能だったのである。

5 「LINDA」 タイプ概要

5.1 KsG マップの導入

上野研究室では, 学部3年生の事例研究プロジェクトとして, GoogleMaps を用いて渋谷のグラフィティ情報を書



図6 双方向的な情報の流れ



図7 研究室の布置もまた, デザインに深く影響している

き込んでゆく、「渋谷グラフィティマッププロジェクト」が進められていた。その渋谷グラフィティマップが、渋谷でのグラフィティイベントを開催していた「特定非営利活動法人 KOMPOSITION」によって使われることになった。それに際し、このプロジェクトに参加していた、プログラム開発をした松村飛志は、より情報を書き込みやすく、閲覧しやすい GoogleMapsAPI を用いた汎用スクリプト「KsGMap」を見つけ即導入することになったのである。LINDA ver.2 は、渋谷グラフィティマップに導入されることになったこの「KsGMap」を導入したものである。このように、Web2.0 に関心を持ったプログラマーに加え、

4. 1 プログラム開発の項でも記述したように、教授や、研究室の学生の Web2.0 への関心、大学内でインターネットが自由に行えるサーバー環境、といった上野研究室の布置もまた、本研究のデザインに深く影響していると考えられる。(図7)

5.2 CSS によるデザイン

KsGMap が導入され、動画・音源の投稿は管理者に依頼する必要がなくなった。LINDA プロトタイプに CSS を用いて見た目のデザインの充実させた(図8)が、KsGMap の導入で、LINDA 自体のインターフェースが大きく変化したこともあり、再度、CSS を用いて装飾し直す必要があった。それに伴い、コンテンツの追加をした。LINDA を地図単体のサイトではなく、例えば、LINDA の開発状況、記録が随時アップロードされるインフォメーション的な役割を持ったページ、使い方を詳しく載せたヘルプページ、渋谷グラフィティマップなどの関連サイトへのリンクページ、さらに、音源を投稿する時用にアップロードページを設けた。



図8 ライブハウスマップLINDA タイプ

6 使用の可能性

6.1 インタビュー

このマップが使用される可能性を実証するために、版マップを実際に使用される様子を撮影し、インタビュ

ーを行った。その中で、新たなコンテンツのアイデア、より使いやすくするための要望、さらには、それに伴い、使用の可能性といったものも得ることができた。

2007年1月3日と1月7日にそれぞれ違う友人に対して行ったもので、実際に、友人Aの知り合いのバンドのライブ情報・音源、友人B自身のライブ情報・音源を書き込んでもらいながら、LINDA の使用の可能性についてインタビューをしていった。具体的には、書き込みに関して、LINDA の使い方、書き込み時のジャンル選択に関して、LINDA の活用方法、改善点について質問していった。以下では、特に興味深いところを抜粋し、それについて記述してゆく。デモ環境はPCはApple、ブラウザはFirefox、もう一人の友人の時はPCはWindows、ブラウザはInternetExplorer6を利用したが、LINDA がうまく動作ず、途中からFirefoxを使用した。

全体として、入力・閲覧に関しての意見が多かった。こういったインターフェースの部分は改善すべき箇所は非常に多いように感じる。また、BBS をコンテンツとして設けるというのも共通した意見だった。このことから分かるように、既存のライブハウスコミュニティではメンバー募集、ライブ告知等を行う道具はあってもあまり機能していないようだ。「2.2 社会・道具的ネットワークを意識してデザインされない現状」で述べた、ライブハウスコミュニティを構成する要素が切り離されている。現状という仮説はより明確なものになった。さらに folksonomy といった、具体的なアイデアが出せたことによって、LINDA の具体的な展望、再デザインの可能性も図れるようになった。また、意見の数からも、実際にLINDA に対する期待は大きいと感じた。(図9)

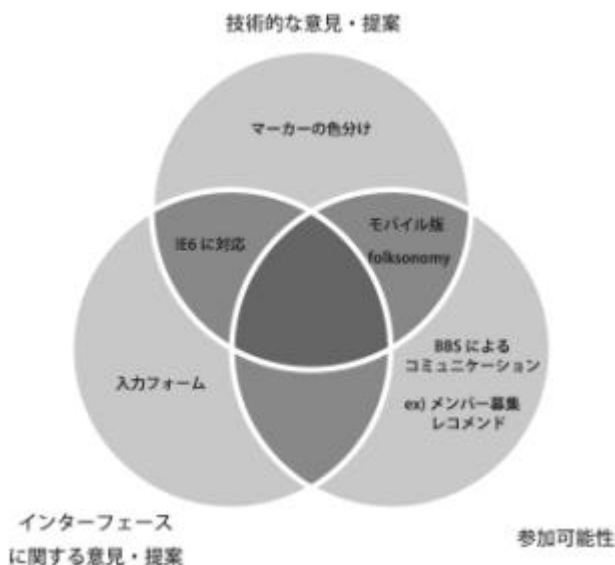


図9 インタビューで得られた意見・提案

6.2 インターフェース上の問題- 1

筆者：入力フォームって分かりにくい？
友人：大丈夫．でも，一行じゃなくて，mixi みたいに入力フォームが吹き出しと対応している分かりやすいけど．
筆者：じゃあ，入力するフォーマットを作ってしまう？
友人：今からじゃ，難しいけど，投稿ページをつくってしまえば，地図も大きくなるよね．
筆者：全ての作業が地図を見ながらできるのが，理想なんだよね．本家の GoogleMaps みたいに．
友人：mixi みたいにしたら，分かりやすいし，画像も 1 枚とかじゃなくて，3 枚とか貼れるといい．

LINDA の投稿は，ページ上部に入力フォームがあり，そこに各情報を入力していくようになっている．しかし，入力途中で他のページに移動すると，それまでに入力した情報は消えてしまったり，動画の投稿，音源投稿時の絶対 URL の入力等で非常に複雑となっている．そこで，友人からは投稿ページを別に作るのどうかという提案を得た．さらに，入力フォームと吹き出しの内容の関連性が一見 分かりにくいいため混乱するという意見も得た．以上のことから現時点での LINDA の抱える，投稿の難解さは，対象とするユーザーの視点を明確にしたうえで，今後改善を急ぐべき点であることが分かった．

6.3 インターフェース上の問題- 2

友人：Firefox でしか見れないって問題だよな？
筆者：新しいバージョンの IE は見れたけど，動作確認をあまりしてなかったよ．
友人：みんな IE 使ってるよ．動作が重たいし，IE で見れないんじゃない配布できないよ．

筆者は，Apple 製の PC，ブラウザは Firefox を用いて LINDA を作成していたこともあり，Internet Explorer6 ではうまく動作しないという自体は今回，友人とのやりとりの中で初めて明らかとなった．インタビュー後，新たにトップページを設け，Internet Explorer7 もしくは，Firefox をインストールしてから LINDA に入るといった仕様にした．

6.4 技術的問題- 1

友人：マーカーを色分けしたら？それはできないの？
筆者：ジャンルで？
友人：ライブハウスなら赤．学祭なら青，路上なら緑とか．色分けしたら分かりやすくない？
筆者：知りたい情報が一目でわかるからいいよね．
友人：それは前から見にくいって思ってたんだよね．

LINDA ver.1 ではカテゴリーによって，マーカーを色分けすることができたが，KsG マップになってから，その機能は無くなっていった．今回の友人からの意見では，マーカーを音楽のジャンルで分けるのではなく，活動ごとに分けていくものである．

6.5 技術的問題- 2

筆者：MAP ページに付け加えたい機能はない？
友人：掲示板とか．
筆者：どこに書き込むの？
友人：吹き出しのなかに掲示板あればみんな書き込む．
筆者：独立して別のページにってのは？
友人：それでもいいけど，混雑しない？ジャンルで分かれてるのがいいよ．独立ページで，ジャンルごとの BBS みたいなもの．2 ちゃんみたいに．
筆者：将来的にはジャンルも書き込みたいんだよね．
友人：じゃあ，スレッドを自分で立てれるようにすればいいんじゃない？それで，ここに，動画見れますって，MAP ページにリンクする．
筆者：それいいね，地図から BBS じゃなくて，BBS から地図ね．
友人：あとやっぱ，ここ（右側の検索）から探すのは分かりにくいよ．
筆者：そだね．
友人：これ（LINDA），育てばいいと思うんだよ．
筆者：どの環境でも使えるようにしなきゃね．
友人：他には，バンド同士のコミュニケーションがとれればいいね．

現在，LINDA は入力フォームの項目からも分かるように，ライブ告知を書き込むことがメインになっている．しかし，ライブハウスコミュニティ内では，ライブハウス，ミュージシャン，ファンらが，様々な情報を交換し合っている．ライブ情報はもちろん，待遇のいいライブハウスだったり，お気に入りのミュージシャンの情報を知らせ合うのである．LINDA 上に動画や音源と共に，ライブ情報，ライブの感想をコメントとして投稿することで，より具体的な情報の交換，コミュニケーションが可能になるのではないかな．

さらに，日本のマイナーミュージシャンの多くが自身のウェブサイトを作成・運営しているが，そのコンテンツとして大抵のサイトに BBS が設置してある．そこでは，他のバンドの告知や，風俗サイトからの書き込みで荒れてしまっている場合もある，彼らのライブに行った感想や，チケットの確保等，効果的に使われていることもある．これらの BBS に取って代わるものではなく，補完するといった意味合いで，友人の「動画・音源を見ることができるとマップにリンクする」といった使い方方を

するBBSがあり得るのではないか。

6.6 参加可能性-1

筆者：場所生については？地域によって流行のジャンル違うでしょ？

友人：ジャンルも選ぶんじゃなくて、自分で書き込むのは難しい？

筆者：それ、ずっとしたいと思ってたんだよね。
YouTubeみたいな。音楽って人によって捉え方違うでしょ？

友人：ジャンルはあってないようなものだからな。

筆者：検索のときに、さっきも言ったけど、音楽数珠つなぎみたいなことできそうだよな。

書き込み時のジャンル選択に関してのやり取りである。音楽のジャンルは異種混淆であり、音楽産業が分するように、きれいに分類できない。そこで、利用者が独自にタグを付け、1つの情報を多層的に分類可能なfolksonomyのようなデータベース、検索システムを導入していくといった提案である。こうしたシステムは、最初からカテゴリーが与えられている従来の情報検索マップと決定的に異なったものである。こうしたことを実現させることで、マイナーなミュージシャンやファンが下から音楽のジャンルを作り出すことをサポートする。

6.7 参加可能性-2

筆者：知り合いを呼んだ時に、駅まで迎えにいかなくやいけないことが良くあるけど、地図に情報が載ってるLINDAとかだと、それも変わりそうかな？

友人：多少は少なくなりそうだけど、やっぱり知り合いだし、分からなかったら電話してーとか言っちゃうかも。

筆者：話戻るけど、音源や動画みせることで「知り合いの知り合い」も増えそうだね。「あなたの好きなバンドみたいな音楽してる知り合いのライブがあるんだけど」って感じで。

友人：人に紹介するにしても紹介はしやすいね、サイトさえ教えてしまえば。モバイル版があればいいけど。

ライブハウスはその特性上（騒音や、お客がたむろしたりして苦情が出ることが多い）、路地裏等、分かりにくいところにあることが多い。また、インタビューの中でもライブハウスのサイトに設けてある地図は分かりにくく、実際に、ミュージシャンが友人を呼ぶときに、友人が迷ったりする前に、直接電話してしまう様である。しかし、ライブハウスは地下にあることが多く、リハーサルなどと重複すると、携帯電話は使い物にならない。こ

ういった問題は解消される可能性がある。

また、本システムはウェブベースで動作する情報システムであるが、渋谷における情報の発信者・受信者という観点から、携帯電話を用いた情報の投稿・閲覧も、このフィールドにフィットした使用方法であると考えられる。GPSにより位置情報を取得し、誰でも渋谷の情報を携帯電話を使って発信できたり、PC上で情報を任意に選び、携帯電話に送信することで、それを参考に渋谷を探索するといった、渋谷の観光マップという使用方法が考えられる。

6.8 参加可能性-3

筆者：LINDAの他の使い方は？バンド側ではなくて、リスナー側の。

友人：こういう音楽が好きなんです、みたいなBBSは？で、LINDAにきた人が、教えてあげる。

筆者：やっぱ、BBS？

友人：交流は深まる気はするけどね。

筆者：バンドのHPのBBSだと告知合戦とかで荒れそうだけどね。

友人：必死だからね。

筆者：このバンド好きなら、(知り合いの)このバンドもいいよみたいな書き込みがいいね。

筆者：もっと他の使い方できないだろうか？

友人：上京してから、コネもないやん？こういうの頼るね、このサイトが流行ってたら。

筆者：そう、使ってもらわないと意味ないからね。スカウトにも使われそうじゃない？

友人：場所も書いてあるしね。

筆者：あと、メンバー募集とかは？

友人：俺書き込もうかな？曲で来たらアップするわ。

ミュージシャンのウェブサイトのBBSの書き込みや、ミュージシャン向け専門情報雑誌のコンテンツには、必ずメンバー募集の告知がある。メンバー募集もまた、ライブと同様に、どういった音楽性を持っているのか、また、どんな楽器がどの程度できるのかということ等を抜きに考えることは不可能である。既存のメンバー募集は、お気に入りのミュージシャンを挙げるのだが、具体的な演奏等を録音・投稿することで、ライブ活動同様、メンバー募集の形態にも変化が見られるかもしれない。また、そうすることで、友人Aのように、上京したてで、ネットワークが皆無の人間のライブハウスコミュニティへのアクセスを助けることにも貢献できそうである。

友人：ある程度、管理人からも情報投げなきゃね。

筆者：そう、INFO.ページにあるんだけど、あんまりでき

てない。

友人：mixi だってそうじゃん，ある程度情報が与えられるから，こっちも出そうって気になんじゃん？最初はサクラじゃないけど，投稿して，あ！ここで情報得られるんだってしないと。

筆者：あ，そうか．これ使ってください！ってのより，このサイトでこのバンドの動画みれますって投稿をコミュニティですればいいんだ。

友人：そうそう．ここで聞けますみたいなの．これが，他のサイトで得られない情報が得られれば重宝するんだよ。

筆者：YouTube 探しにくいしね。

友人：そうそう。

筆者：流行ったら使いたい？

友人：使う使う，音楽好きにはいいでしょ。

7 考察

7.1 ライブハウスマップにより形成され得る新たな活動

ライブハウスコミュニティを構成する要素の布置，ネットワークを再構成し直すことでマイナーミュージシャンの活動がより可視化，また，ミュージシャンやファンの参加可能性を増すことで，コミュニティのあり方，それに伴う活動の変化を目指した。インタビューを行ってゆく中で，LINDA が新たな参加可能性を形成することが示唆された。また，同時に，LINDA に対しての，数々の意見・提案を得ることができた。さらに，実際に使いたいとの声もあり，マイナーなミュージシャンの中で使われる可能性が高いことが示された。そして，このマップによってライブハウスコミュニティでの新たな活動が期待できる。例えば，CD を視聴してから買うように，ミュージシャンの具体的な活動である，音源やライブの様態を撮影した動画を見てから，ライブハウスへ行くといった活動や，単にライブ情報のみでなく，コメント機能を用いた，バンドメンバーの募集や，ファン同士の情報交換の場として，従来無かった，コミュニティの盛り上げ方としても活用されそうである。さらに，タグを用いた検索システムによって，「このジャンルのミュージシャンが好きなら，このミュージシャンも同じジャンルなので

好きかも」といった，ジャンルによる音楽の数珠つなぎ的な調べ方で，音楽ファンのより多様な音楽性を促したり，従来，ネットワークが無いことで，埋もれていた才能あるミュージシャンが認知されるといったように，このライブハウスマップコミュニティの人々の活動を助けるツールとして期待できる。

7.2 再デザインの可能性

しかし，以上のようなことを実現するためには，単に，上記の機能を実装すれば良い訳ではない。何よりも，このマップで用いている技術やアイデアを必要としているようなコミュニティとリンクしてゆくことが必要となってくると考える。1つは，知り合いのアマチュアミュージシャンへの配布，そしてもう1つは，ライブハウスとのネットワーキングが必要になってくる。具体的には，インタビューに応じてくれた友人がよく出演しているライブハウスへの交渉をし，ライブハウスのウェブサイトにコンテンツの1つとして設置することを提案してゆく。使用方法をインタビューで行っていたように実際に手取り足取りで教え，時には書き込みを代わりに行き，LINDA の情報を増やしてゆく。そうして，アマチュアミュージシャン，ライブハウスとリンクした後，都内に焦点を絞って展開し，変化を見てゆく。また，ライブハウスコミュニティと様々な形でリンクしてゆくことで，さらに再デザインの可能性も出てくる！デザインとは終わりなきプロセスである。商品とサービスは社会的生命を持つ。それらは手から手に渡り，途中で変化する。(Callon, M., 2004) このように，マイナーミュージシャン，ライブハウスといった，ライブハウスコミュニティと様々な形でリンクしてゆくことで，その都度，LINDA は再デザインされ，使用の可能性はさらに増すと考える。(図10)

さらに別の見方をすれば，本提案は，渋谷という街の情報デザインの一部であり，渋谷のような多層的な文化や，コミュニティ，活動，ネットワークを可視化するツールとして位置づけられるだろう。一般的な地図の指す渋谷は，いわゆる若者の言う渋谷ではなく，上記で表現された文化，コミュニティ，ネットワーク，活動の表象こそが若者が目指して通う渋谷とは言えないだろうか。



図10 コミュニティとのリンク - 使用 - 再デザイン

そして、その先に、「情報発信者とその情報」と「我々」をつなぐ情報システムの提案が可能になり、今まで情報を発信することができなかつたり、従来の方法では発信しきれなかつた、いわばマイナーな情報の発信者・受信者の新たな活動が可能になると考える。

参考文献

- [1] 上野直樹, "社会 - 道具的ネットワークの構築としてのデザイン", SPECIAL ISSUES OF JSSD, 14-21, vol.9, No.3, 2002
- [2] 川床靖子, "人,もの,世界の関係を可視化するインスクリプション", Japanese Psychological Review, 8-23, Vol.43. No.1, 2000
- [3] Callon, M. (2004) The role of hybrid communities and socio-technical arrangements in the participatory design, Journal of the center for information studies no.5, Musashi Institute of Technology.
- [4] 上野直樹・土橋臣吾 "科学技術実践のフィールドワーク・ハイブリットのデザイン", せりが書房, 2006
- [5] 上野直樹・野々山正章・真行寺由郎 "ドキュメントのデザイン 状況論的アプローチ", 朝倉心理学講 11 文化心理学, 2008
- [6] 江波戸静士・小柳津光義・鎌形俊輔 "町田の都市構造の分析とマルチレイヤーによる情報デザイン", 武蔵工業大学環境情報学部 2005 年度卒業論文